



# みどりの風

平成30年5月1日発行  
校報 第552号  
(みどりの風 第95号)  
練馬区立関町北小学校

## みどりの風

校長 大野 泰弘

暦の上では、立春から八十八夜。ここ数日間は、初夏を通り越したような陽射しが降り注いでいました。街にはそろそろ「新茶」の文字が目立ち始める季節。野にも山にも若葉が生い茂り、新緑の美しさに生命の躍動を感じることができる季節となりました。

ところで、本校には表題の「みどりの風」という言葉を冠するものが3つあります。ご存知でしょうか。

一つめは、本校の「校歌 みどりの風」です。本校の校歌は開校してから5年目の昭和38年11月に制定されました。「めぐる森から林から みどりの風がふいて

くる ここ関町 関町北小 北小に」という一番の歌詞にもあるように、開校当時、学校の周辺には森や林が広がっていて、緑が多かったそうです。

二つめは、子どもたちの放課後の居場所事業「みどりの風ひろば」です。この「みどりの風ひろば」は、平成22年3月に設立され、同年9月から事務局が動き出したということですから、今年度で9年目を迎えたこととなります。

そして、三つめは、本紙「学校だより みどりの風」です。「みどりの風」となってから今月号で95号ですから、第1号は学校応援団の活動が始まった時と符合しており、年内には、記念すべき100号を発行できることとなります。

これらはどれもそれぞれに歴史がありますが、わざわざその名前を選び、付けたということは、赤ちゃんに命名するときと同様、関係者の方々の思いや願いが込められているはずです。

そこで、あらためて「みどり」がもつイメージはどんなことなのか探ってみました。

そもそも植物や自然を連想することのできる「みどり」は黄色と青色を混ぜてできる色ですが、光の中では中間色にあたり、バランスが取れた色とのことです。そのため、私たちの心に周りとの調和・中庸・安心感や安定感を与えてくれ、リラックスやリフレッシュといった心理的な効果をもたらしてくれます。また、五感の中では嗅覚に関係が深い色だそうで、匂いや香りからも、安心感やリラックス感を得ることができます。

ですから、「みどり」からイメージできる言葉には、「穏やかさ・爽やかさ・安心・安息・希望・健康・若さ・健康・平和・平穏・新鮮・生命力・安らぎ」などがあると言われています。

開校当時、学校周辺の新緑の世界から送られて来る春の風の中に、単に爽やかな心地よさを感じるだけでなく、これらの言葉のいくつかをイメージし、そこに将来子どもたちに育てほしい姿を重ね合わせ、校歌の歌詞として残されたのかもしれませんが、風には色はありません。それをあえて「みどりの風」と名付けたのは、新緑の中で生まれた風ということと合わせ、「みどり」という言葉のもつイメージや響きを大切にされたのでしょう。そして、学校応援団の設立当初の関係者の皆様も、その思いを酌みとって、その名前を付けられたのかもしれませんが。

練馬区も平成27年に「みどりの風吹くまちビジョン」を発表し、様々な施策を実現していますが、この関町北小学校では何十年も前に「みどりの風」が吹いていました。これからも「みどりの風」を感じながら、先人の思いを大切に、子どもたちのための教育実践を積み重ねていきたいと思ひます。

今月26日には、運動会が開かれます。その場では、きっと子どもたちが「みどりの風」を感じながら、それと共に「風になって」走ったり、演じたりする素晴らしい姿をご覧いただけることと思ひます。どうぞご期待ください。

### 茶摘み

作詞者 不詳  
作曲者 不詳

夏も近づく八十八夜  
野にも山にも若葉が茂る  
「あれに見えるは  
茶摘みじゃないか  
あかねだすきに菅の笠」

日和つづきの今日このごろを  
心のどかに摘みつつ歌う  
「摘めよ摘め摘め  
摘まねばならぬ  
摘まにや日本の茶にならぬ」